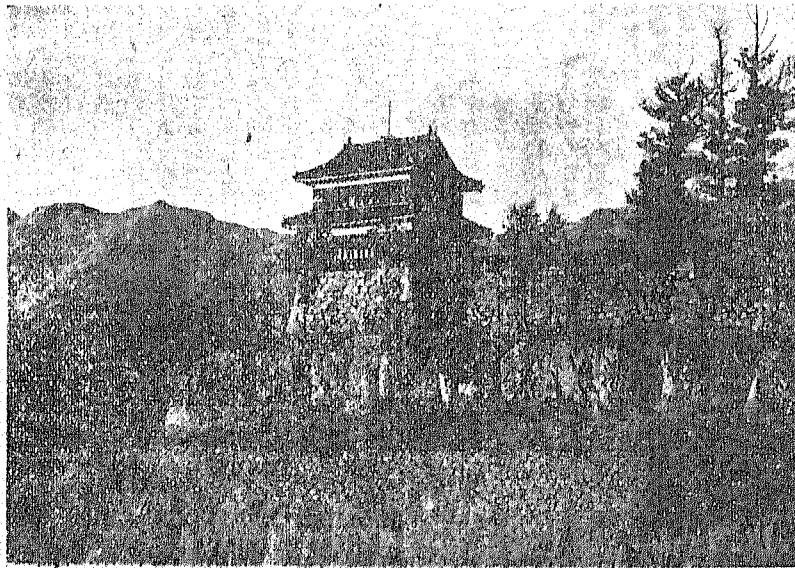


東千曲會報

昭和十七年九月二十五日

第十二號

社団法人千曲會



懷しの眞田城址

目次

- △植物學上の纖維と麻……齊藤 實(二)
- △全國高工柔道大會奮戰之記……山寺 記(三)
- △いちご風景(其一)……碓氷 茂(五)
- △斷片……養 子(五)
- △科學點描(5)……(六)
- 土壤の螢光
- スフは日光で傷まない
- 砂糖過食の害
- △母校便り……(七)
- 卒業團員の送別式
- 柔道班の表彰
- 體力章特殊檢定を行ふ
- 今年度養蠶實習終了
- △地方通信……(七)
- 茨城だより
- 伊豫便り
- △日本纖維研究聯盟第四回
纖維聯合講演會廣告
- △本會記事……(九)
- 本會日誌
- 遠藤先生退官記念品受領報告
- 會費領收
- △敍任辭令……(九)
- △訃報……(九)
- 弔慰金募集
- 弔慰金報告
- △會員動靜……(一〇)

植物學上の纖維と麻

齋藤實

纖維とは櫻井博士の云はれる如く所謂纖維と稱せられる幾多の資料を調査し其の結果から歸納的に「その幅が肉眼的には直接測れない程細く數十ミュー以下であり長さは幅の数十倍以上大きいものである」と定義されよう。然し植物學に於ける纖維は之と全くその意味内容を異にするもので其の包含する範圍も極めて狭い。一般に所謂天然植物纖維界の王座を占むる棉花は植物學上では毛又は毛茸と稱せられるもので纖維ではない。此意味に於て無難作に使用されてゐる棉纖維なる語の代りに羊毛の如く棉毛なる語の使用が望ましい。毛と云ふ言葉は如何にも動物的な臭味を多分に藏するかの様に感ぜらるゝ點もあらうが、植物學の初歩でも學んだ方々ならば必ずしもそうでないことは直ちに了解出来ようと思ふ。棉纖維の代りに棉毛なる語の妥當なるは植物學上からは明白な事實であるが、更に實際に植物學上の眞の意味の棉纖維の問題が登場し來たる場合、之れによつて容易にその混亂を防ぎ得ると思ふ。と云ふのは筆者は實際に棉莖の靱皮纖維利用に關する研究論文に接した記憶を思ひ起すからである。然し棉毛なる語も實際使用する場合には時に困難も生じ、又棉纖維或は棉毛纖維と云ふ様な語を用ひなければならぬこともあらうし、從來用ひられて來た棉纖維なる語の總ての場合に置き換へる譯にゆかないのは勿論である。

植物絹等も皆植物學上毛と稱する部分を利用するものである。然し同じく毛であるも棉毛は種子の表皮細胞の變化せるものであり、カボツクは莢の内部より生ぜるものでその由來は異つてゐる。所謂植物絹と稱せらるゝものは夾竹桃科及蘿摩科に屬する數種の植物より採取される絹絲光澤のある種子毛である。然らば植物學上の眞の纖維とは如何なるものか、又實際その利用されてゐる植物はどんなものか。以下それらに就いて簡単に述べて見やう。

植物學上纖維と呼ばれるものは、植物細胞の中特に一方にのみ著しく生長して細長くなつたもので兩端が尖り細胞膜の厚く發達した細胞である。そして植物體中に於けるその所在によつて靱皮纖維及び木質纖維に大別し得る。

我々が纖維利用の目的で栽培する植物は特にこの纖維のよく發達したもので、莖の皮下にある靱皮纖維を利用するものである。即ち普通にアサと云はれる大麻リンネルを織る亞麻、越後上布、越後縮で知られてゐる亞麻(ラミー)又はカラムシ、外米でお馴染の南京袋の原料となる黄麻、黄麻代用として大豆其他農産物の麻袋作成に使用される苧麻、洋麻、サンヘンブ等何れも皆莖の靱皮纖維を利用するものである。

以上の外に麻類としてマニラ麻、シザル麻、ニユーゼーランド麻、モーリシヤ麻等種々あるが是等は何れも單子葉植物に屬し、葉の纖維、嚴密には植物學上纖維束と稱せらるゝ部分を利用するものである。これら纖維束は導管、篩管其の他種々の細胞から成りその周圍を纖維がとり圍んでゐるものである。即ち是等の植物に於いても植物學上の眞の意味の纖維が用ひられるのであるが、更にそれに附随した纖維でない他の部分も包含されてゐることになる。

尙茲に注意すべきは新聞紙、西洋紙等の原料となるパルプはエゾマツ、トマツ等の材木の纖維と考へてゐる人が相當多い様に思はれるが、是等も亦嚴格には植物學上では矢張り纖維と稱さるべきものではなくて纖維細胞によく似た細長い形の假導管と云ふもので、その細胞膜はリグニンを含有する爲、所謂木化して硬いので、之を除き細胞膜を構成するセルロースだけを殘したものである。日本紙は楮、三稜、雁皮等の靱皮纖維から作つたものであることは一般によく知られてゐることと思ふ。

其の他纖維利用の目的で栽培されてゐる植物には萬、七島蘭、莞(フトキ)莞草、太甲蘭、杞柳、寧蜀黍、絲瓜、バナマ草、林投(タコノキ)等種々あるが、何れも纖維は強靱によく發達してゐても植物學上の眞の纖維のみを採りて利用してゐるものは極めて少い。

斷様に纖維作物として植物纖維利用の目的で栽培されてゐる植物には種々雑多なものがあるが、又それ等より採取される普通に所謂植物纖維なるものも植物學上の眞の纖維のみでなく甚だしく多種多様であることが明かである。

に就いて考へて見たいと思ふ。

棉を除く殆ど總ての紡績原料を採取する纖維作物は皆麻なる名稱が附されてゐる。然し是等を植物分類學上より見る時又實際に利用さるべき植物體の部分及び其れ等の用途も各種各様で可成の相違がある。にも不拘麻類として取扱はれてゐる爲に、それ等植物を實際に見たこともなく、又少しく立ち入つて如何なるものか調べたことの無い者には麻と云ふ語の爲に自分の知つてゐる麻に總て麻と稱せらるゝものは同じ様な植物、でなくともそれに類縁のものであるかの様に考へらるゝのは無理からぬことと思ふ。實際を考へてゐる人が少くない様である。

一般作物の常識からしても作物の品種なるものは多くは植物學上ではそれ以上細分しない部分即ち變種以下のものである。形態的には最早殆ど區別の出來ない、生理的性質の相違を基礎とせる分類が重要となつてゐるのである。斯様な見方からしても、麻類中に大麻、亞麻、苧麻、黄麻、洋麻等があるとすれば、夫等は同じ植物中の種々の相違位にしか考へないのも尤もの様に思ふ。實に實際には麻類として一括されてゐる植物はその大部分が植物纖維が使用されると云ふ共通點以外には植物分類學上屬のみに止らず更に科、目、綱までも異にせる、全く似てもつかぬ植物の集りである。即ち大麻は桑や楮と同じ桑科の植物であり、亞麻は亞麻科、苧麻は苧麻科に屬してアカソイラクサと科を同じうし、黄麻はシタノキ、ボダイジュ等の屬する田麻科植物、苧麻、洋麻は共に棉、葵、芙蓉と同じく棉葵科、サンヘンブは苧科に屬し、單子葉植物に屬するマニラ麻は芭蕉科、シザ

ル麻、モリーシヤス麻は共に水仙と同じ石蒜科、ニユーヂーランド麻は百合科の植物である。

従つて麻類と云ふ語は丁度我々が芋類としてその中に植物學上からは甚だしく類を異にする馬鈴薯、甘藷、里芋、蒟蒻芋、菊芋等を包含せしむる程度の極めて粗雑な語と考へらるべきものであらう。

以上於ても明白な様に緘維又は麻と云ふ様な普通何の疑問も起らないありふれた言葉に就いて見ても、その用ひらるる時と場合により又人によりその意味する内容には自らに非常な懸隔のあることは容易に窺ひ知ることが出来る。此點私には他人の言葉乃至文章に於て其の意圖する處が十分認識し了解出来てゐるか否かを更に一層注意深く省察する必要があることを愈々痛感せしめらるゝのである。これ迄の自己を顧みる時、餘りにも貧弱な知識経験を以て他人の言葉を十分理解したつて徒らに神経をいらだたせたことか、も少し人を信じつゝ而も尙片言切句

我が柔道班は去る八月六日より三日間東京工業大學主催第九回全國高工武道大會に於て堂々三連覇の榮冠を獲得して母校の爲萬丈の氣焔を吐いた。以下は其の熱戦記である。

全國高工柔道大會奮戦之記

山 寺 記

物事は成るの目にあらずして依つて來る所に有ると人が言ふ全く名言也。然し成功までに導く依つて來る所の努力たるや經驗の無い者に幾ら説明しても豈無駄と言ふ可きだ。時恰も大東亞戰下我が國の歴史と同じく連戦不敗の輝かしい歴史を有する我が蠶專柔道班は

東京工大主催全國高工武道大會三連覇確立の昭和十七年を迎へたのである。昨年度は文部省の都合にて中止の爲め實力ある先輩は涙を吞んで卒業したので此處に全く新陣容の柔道班がパトンを受取つたのだ。大會決定を見越して新學期初頭から熱と團結を骨として血と

は勿論、委曲を盡した言辭に於ても、その人の意圖する處に十分自己の考へ及ばざることのあるを思ひ、殊に他人の言辭によつて自分の氣持に烈しい衝撃を受けざる場合、その由つて來たる處に就き、今一層ゆとりある心を以て自己省察を試みしめみ又は憤りをしなくて済むことだらうか。

然し之れも時々考へることがあると云ふに過ぎないで、事に當つては殆ど實行の出來ない自分を不甲斐なく思ふ。こうした日常の心掛けは一面物事に對して姑息因循と云ふか、消極的ならしめるとの考へ方も可能であるが、他面常に斯様な心掛けで物事に對する判斷處置をなす修練を積むことにより、寸時を争ふ突嗟の場合に於ても比較的正確を得たる處置をなし得ることが出来るのではないかと思はれる。

涙で稽古を續けて來たのだ。來る日々にも稽古それが辛いのか、馬鹿我々の尊い歴史は我々の先輩が此れ以上の血と涙で築き上げてくれたのだ。合宿は七月二十二日—三十一日迄紡績科長以下全科の職員業手が誠心誠意無我犠牲の賜で此の物資不足の時代に一日として心配なく過した得た事は衷心より御禮申上げる次第である。此れに報ゆるには何うでも死んでも優勝旗を持つて來なければならぬわけだ。清水先生は日滿東亞大會日本代表にて渡滿の日が迫つてゐるにも不御多用中を特に御指導願つて頂いた事は大なる幸運と言ふ可だ。八月五日上京在東亞大會は多數御出迎ひを受く先輩の有難さしみじみと身にこたえる。出迎ひの一先輩小聲で今年は何だと言ふ我は勝さぬ一言を果て先輩はOKだ然し天より知る者のない結果である我れ唯天を信するのみ。八月六日漸く試合の幕が切つて落されたのだ。午後二時大講堂にて優勝旗、文部大臣賞の返還式がある再び待つて歸るぞと心に誓つて八木學長に手渡す氣持は想像に餘り有つ。抽籤の結果本校は第一回戦府立高工、第二回戦桐生だ。今年こそ意氣込み桐生の實力は相當のものであつた。我も又試合に對する研究は盡されてあるのだ、後は唯精神力を以てぶつかるのみ漸く七日前八時大岡山道場にて一大肉弾戦が展開する。府立高工は新設にて實力未詳侮る可からず、恐れる可からず、先鋒小田中三段を持つて來た事は蓋し思ひ切つた作戦と言ふ可きだ。小田中立つた瞬間敵を呑み矢次早に續けて二本抑へて三本目は分力力出來るだけ残して午後の桐生に備へる可きだ。次に小池敵中堅を破る次に一年の竹重初陣にして運が良過ぎる。三本軽く取つて副將と分く次に秋山敵大將と立つやいなや釣込腰で奇麗に道場の中央に投げつづけて不戦六人と云ふ大會未曾有の成績でまづ緒戦の凱歌を上げる。桐生より又上田が勝つかと洩れる。隣道場で桐生對米澤高工が火花を散らして自熱戦を展開して居る。米澤盛んに嗔下つて遂に桐生と

代表戦をやる寝技の巧きは米澤大會隨一と見る。桐生遂に勝つ。午後二時半上田對桐生の大試合が開始された、之れは事實優勝戦で物凄く自熱化する桐生何者ぞ、恐る可からず先鋒矢島自爆の信念で飛び込んで行く其の氣力壯に偉なり。敵は我が氣力が恐れ分く惜むべし二鋒野仲小驅乍ら恐る可き精神力を持つ見る間に得意の横四方に入つて一本取る。野仲次に小く攻めたが敵に乗せられて惜しくも絞が決る。然し野仲手を叩かずいさぎよく落ちる此の意氣が實に頼もしい。秋山投げて取らうと焦せるが敵立たず分く次に田爪落着いて難なく抑込ん中攻めまくるが敵しあつてはなれず分く山本小驅乍ら實力は相當な者だ敵我に袖を掴ませぬので早く片をつける可く聲をかけるが開えぬ様だ惜しいが時間となる。竹重疲れた色も無し敵は引分を取るらしい遂に分け、次は我三將宮島副將本郷と當る本郷は五尺九寸二十三貫の大男高専大會の名つての豪者然し恐る事毛程もなし敵は猛進にぶつて敵は強引に突張つてうまく入れぬ様子その内宮島抑へんとする殺那惜しいかな審判一時中止を宣し機會を逃す再び兩者立上る、又も敵は寝技で引込む長脚を以て三角をするのみ突然味方の陣中に宮島敵と一體になり飛込んで來る途端入つたの聲が聞える人影で見えぬ一瞬水をかけられた様な氣持が襲つて來た。宮島有るだけの力否此れが眞の精神力と言ふものだ。恐る可き力敵の巨體を釣し上げて審判分けを宣すよく逃げた宮島有難う涙が汗の様に流れる之れで大勢は決つた。天下覇を誇る本郷と分けた事は宮島の氣力賞して餘り有る事だ。次に副將岩下敵大將を攻めるが敵は氣力盡きて徒に時を過す、遂に時間鳴呼上田不戦一人残して桐生に勝つ感激の極頂と共に萬歳を叫ぶ。勝つて兜の緒を絞めて行く、薄暗い道場に明日の抽籤が行はれる、残つた所十三校中、

上田、仙臺、濱松、神戸だ。結果は上田對仙臺よし今日の元氣で明日を迎える可く引上ぐ仙臺は優勝候補日大を大将で勝つた東北の勇人自信満々として闘志は火の如き觀あり選手十人中三年が七人を占む、明くれば八日時恰も大瀧泰蔵日、午前九時準優勝の火蓋が切られた審判官田七段例の如く先鋒矢島あく迄敵を倒す意氣で征く仙臺上田を恐れ入るが勝つ自信は持つてゐる様だ、敵は寝て入らぬ攻め自らも分けた。次秋山立つて行くが様を持たせず遂に又分く。次野仲愷てす恐れず敵の猛然と挑みかけて来るのをよく制し得意技で攻めて惜しくも時間となる。次山本元氣一杯で敵に當る敵も仲々頑張る山本焦るが思ふ様にならず又短い七分が来てしまつた。次小田中確實に入つたと見るや敵跳起きて逃げる立つて小内で攻る敵は分けをとる様だ小田中盛んに攻めるが惜しくも時間だ。次に田爪立抜から寝抜に入るもう得意が入つて押込足が掛つて宣告が無い見えておる内足を拂つて一本取る。次の敵は巨體を猛虎の如く當つてくる田爪平然と受け流し乍ら攻めて分く。竹重平氣で敵を相手と見ておる者を立きれさせると安心する敵は大勢取戻す可くある限りの力を以つて阿修羅の如く武者振り着くが竹重平氣で動かぬ敵が焦れば焦る程敵は危い敵は手を焼いて遂に竹重堂々と副將と分く、宮島敵大將戸部と對す戸部は高専大會神宮で三段五人抜の猛者との事其闘志と言ひ割停な事は天晴だ。敵の責任は戸部一人にかけて来る實力以上の實力無くては駄目なわけだ、宮島昨日の桐生と同様の意氣なるが體調子が悪い宮島腰を引く途端戸部立技から寝技に移り強引に跳て上になり縦四方で抑へるんだ馬鹿野郎と叫ぶが宮島起きぬ鳴呼流石の宮島力盡きて三十秒だ。次で岩下必勝必殺で征く戸部盛んに道場を動く岩下必勝必殺で征く戸部盛んにつと得意技をかける途端敵返が入つて一本瞬間の形勢逆轉頭がぼつとして来る大將細田必死の形相で戸部にかゝる戸部勝つ意志は無かつた所案外の様だ。敵は細田の實力未詳か重して来る細田の得意だ、細田上に實力無かつて手に汗、又細田上になる敵も必死又起きる途に此處へ来て上田取付か、應援は降りか

ける抑込だ細田起きる駄目か今はチンを待つばかり途端細田の足が掛り抑込消たの瞬時正に二十八秒細田すかさず後に廻つて絞める顔と言はれ横に落して全く絞る戸部遂に手叩いも堂々と準決勝の凱歌上田に次ぐ今日の大試合は終つた。漸く決勝に進む相手は濱松、奇しくも同宿英越同舟午後二時開始濱工幸にも神戶を倒りし此處迄である。

矢島立つて直ぐ敵を抑へて一本。次の敵は逆をふくやうが難なく分く、秋山落着いて時間がなくて分く惜しい。田爪の實力を恐れ敵唯逃げ廻つて時間だ。野仲自信たつぷりに寝技に入り得意技四方で三十秒。次の敵は恐れれても駄目だ惜しくも分けた。山本鋭く入るが敵はしがみついて時間を待つ遂に分けた。竹重敵副將と當る實力をかけてくるが竹重動かず敵も手を焼いて遂に分く。時間が有ればと思ふ岩下攻め乍ら隙を狙ふ敵は焦つて向つて来る岩下寝て行けと盛に群をかけてやるが駄目らしい、敵はあく迄強引に突張つて遂に分けた。最後は優勝旗に不戦二人を残して此處に再び否三度目の榮冠を上田が獲得して大試合の幕を閉じたのだ。

過越し績を省て實によく戦つた桐生、仙臺の強敵を正々堂々と感概無量、暮色蒼然たる道場を退す、岡班長、先輩相抱き共に萬感無言涙の止る術無し、努力と團結の勝利は柔道班の榮のみで無く母校三千先輩名譽の爲に戦つたのだ、三連朝の榮冠は全國に上田の存在をたのしみと認識させたわけだ。某方面では今年は最後で有るから桐生か仙臺に優勝旗をやりたいかつた様だ、痛恨思ふ可し岡班長我が班に盡瘁致さる事十幾年凡そ御努力が實を結び魂を呼び合つて母校の名譽と進路に正し不可哉、打算利欲の事は何なる感謝にたとふか最後の一刻那迄戦抜いたが爲天は自ら助ける者を助けて呉れたのだ。最後に大會の戦跡を記して御筆する。

本大會に當りて熱誠なる御援助を賜はりし母校職員並に東京千曲會各員各位に對して厚く御禮申上げる次第である。

戦績は左記の通りであつた。

第一回戦

先小田中參段	先今井初段
小池參段	上杉初段
竹重參段	荒金初段
秋山參段	大橋初段
矢島參段	石田初段
山本參段	本橋初段
宮島參段	田井初段
田爪參段	藤本初段
副將岩下參段	山本初段
大將細田參段	鈴木初段

第二回戦

先矢	桐生高工
中	大久保武段
秋	山口武段
田	海野武段
小田	井田武段
山	宇敷武段
竹	本武段
宮	馬場武段
副將岩	今井武段
大將細	本郷武段
田	菅奈武段

本優勝戦

仙臺高工	初段
中村	初段
澤	初段
佐藤	初段
我妻	初段
池田	初段
菊地	初段
大山	初段
今野	初段
今野	初段
今野	初段
今野	初段

優勝戦

濱松高工	初段
山成	初段
橋本	初段
天野	初段
野本	初段
出井	初段
木次	初段
須田	初段
板見	初段
赤松	初段
山岡	初段

(附記)

我が校柔道班が群がる諸強豪を押えて大會初之三連朝を克ち得た裏には幾多の熱心なる指導、後援があつたことを銘記しなければならぬ。母体職員、在京千曲會員其の他の後援は云ふ迄もないが、殊に直接其の任にあつた岡班長、山寺先輩の努力を忘れてはならない。山寺君は病後にも不拘炎暑酷熱をものともせず常に班員と共に過し猛練習を指導し合宿して目的を完達し物心兩方面に亘つて身を以て班員を指導した。其の結果が右の様な大戦の眞摯敢闘する精神こそ母校の誇りしき象徴であり學校が多量の感激を以て表彰状を送つたのも宜なるかなである。吾人は此の陰の殊勲者に對しても限りなき感謝を捧げるものである。(一報國團員)

第四回織維聯合 講演會開催さる

大東亞戰事下被服資源の獲得並に研究は愈々重要性を加へた。こゝに日本織維研究聯盟は時局の要望に應ふるべく本紙八頁廣告の織維聯合大講演會を開催することとなつた。千曲會員は好機を逸せず奮つて御出席御聴講あらんことを切望す。

編輯部

隨

筆

いちご風景(其一)

碓氷 茂

越後は米の國である。毎年、四百二十萬石とれるから大したものだ。日本に越後といふ國が無かつたとしたら米に大變な困難をしてゐるに相違ない。汽車で、越後平野を行くと、行けども行けども水田である。

この越後の水田は昨年は稻熱病のためあまり出来がよくなかつたが、今年はこの分だと頗る出来がよい。先づ豊年だいま日本は食糧不足だといふのに有難いことだ。

越後は海に臨んだ國である。地圖で見てもわかるやうに、海岸線が非常に長く誠に海といふものに恵まれてゐる。この點信州のやうな海を持たぬ國とは大いに異なる。そこで多くの人達は越後には海を知らぬものは殆んどあつまいと想像するが、どうしてなか／＼さうでない。この海の國越後にも海を知らぬものが相當あるのだから驚く。新潟縣は大縣である。全然海に接しない地方がある。例へば東頸城郡とか、東蒲原郡とか南、中、北の三魚沼郡とかはチットも海に接してゐない。したがつて、これら地方に住んでゐる人達の中には全然、海を見たことのないものが相當ある。

「船と海を見せるために子供を新潟へ連れて來ました」と。さうすると私は先生達にこんなことを言つて了ふ。「さうですか。新潟縣は海の國ですから、海を知らないものはないと思つてゐるが、そんな子供達があるのではうか」とすると先生達はきまつたやうに答へる。「どうして、新潟縣でも海や船を知らぬものは澤山ありますよ」私には、何だか不思議に思はれる。こんな海に恵まれてゐるのだから、海に接する機會は相當あるだらうと思つてゐるのに海や船を知らぬものが可なりあるといふのだから。これでは信州あたりの海に恵まれぬ國の人達で海を知らぬものが多いのは不思議ではない。さて、先生達は生徒を連れて新潟の港へ出かけて行く。海や港を見せられた子供達は、始めて見た海や船に驚異の眼をみはつてゐるのである。かうした光景に接するたびに私は思ふ「子供にしてからがさうだ。女や老人で海や船を知らぬものは、越後の國にも相當あるに相違ない。これでは滿洲開拓のため子供を義勇軍にやれといつたり、大陸の花嫁にやれといつても出したがらないのが當然である。まして、世間の狭い母親達や祖母達が義勇軍や大陸の花嫁にやることに猛烈な反對をするのも理由のないことではない」と。

「船と海を見せるために子供を新潟へ連れて來ました」と。さうすると私は先生達にこんなことを言つて了ふ。「さうですか。新潟縣は海の國ですから、海を知らないものはないと思つてゐるが、そんな子供達があるのではうか」とすると先生達はきまつたやうに答へる。「どうして、新潟縣でも海や船を知らぬものは澤山ありますよ」私には、何だか不思議に思はれる。こんな海に恵まれてゐるのだから、海に接する機會は相當あるだらうと思つてゐるのに海や船を知らぬものが可なりあるといふのだから。これでは信州あたりの海に恵まれぬ國の人達で海を知らぬものが多いのは不思議ではない。さて、先生達は生徒を連れて新潟の港へ出かけて行く。海や港を見せられた子供達は、始めて見た海や船に驚異の眼をみはつてゐるのである。かうした光景に接するたびに私は思ふ「子供にしてからがさうだ。女や老人で海や船を知らぬものは、越後の國にも相當あるに相違ない。これでは滿洲開拓のため子供を義勇軍にやれといつたり、大陸の花嫁にやれといつても出したがらないのが當然である。まして、世間の狭い母親達や祖母達が義勇軍や大陸の花嫁にやることに猛烈な反對をするのも理由のないことではない」と。

斷片

養子

(筆者は紡三回卒 新潟滿蒙開拓勸務)

高原の秋も漸く訪れて心よき風が吹き渡る。今日此頃生徒等の病氣欠席を見る様になりました。こんな状態は毎年起る事であるのに近年になつて益々色々の方面からの話を聞いて、痛切に、體質とか環境とか、病氣の事が思ひやられてならない。世の中が進歩すればする程病原菌が發達してゆくのでせうか。老人達に言はせると「今の若い者は弱いもんだ」實際私達でさへ自分の周圍に餘りに病人の多い様な時は成程と考へられるのです。山國の特徴とも、誇りともするリンゴの頬、赤黒い顔で母校を巣立つて後、一年又は二年立つて少しく音信の遠のいたと思ふ頃突然見送る様な美しさになつて、在校中は看馴れなかつた和服も都會風に着こなした人の應待や、言葉など一人前とも言ふ様な洗練された中にたゞ一つ私達にとつて、さびしく感じさせるものは、顔色の餘りに悪い事を直感してあゝ、健康を害して居るな……と知る。色々話すと話す内に病を得てつい歸郷、靜養して居る由、そして幸再起出来る人もありますが、そのまゝ立上る事の出来得ぬ不幸の姉妹達、今迄幾人あつた事であらう。天命とは申せ餘りにおしい事です。何故こんな事になつてしまふのだらう、と其の度に心重くなりつゝ考へないでは居られません。學生時代はクラスの中でも元氣でピチピチ張切つて居つた仲間だつたのに。赤黒かつたあの血色も、リンゴの頬も今はどこへいつたことやら、それは過ぎ去つた昔の大昔の事の様にさへ思はれる餘りに恵まれた自然の生活に、幸な學生生活のび／＼とした家庭での生活、それによつて健康も保たれよりすこやかに延びたのだつたのに。

卒業と同時に何も彼も變つた、餘りに變つた生活、空氣、今迄一度も使つたことのない神經の浪費、食べなれぬ食物、人との接觸に身も心も疲れてしまふのだから。それは時間の長い事によつて、やさしい肉體は益々弱められて行くのではなないでせうか。みす／＼わかつていながら如何とも出來得ぬ現實の社界生活です。私共は心から叫びたくります。若い人の増して女性の職場に、もつと向上すべく研究してほしいと。

また或る方面に於ては、徒に長時間の勞働、それによつて睡眠不足、其の次ぎは疲勞、倦怠、仕事の低下、失敗ではなないでせうか。これさへも當然の事の様に考へて居る人達のある事をき、「あれも人の子權拾ひ」とか痛切に考へられます。或る程度仕事は重くとも、精神的に恵まれて居るとか、仕事に常に恵まれた心の餘裕のあるところに働いて居る人達は同一職場に比較的長く居る様です。大體に仕事に苦しいと聞く裏面により大きな女

性特有の精神的の苦しみがありません。これは先輩諸兄の根氣よき指導鞭撻をお願ひする外ないと思ひます。山高く水清きこの地に生れ、育まれた妹達は現在の學生生活に於て、最も大切な體力の養成健全なる精神の涵養に努力しなければならぬと思ひます。活社界の諸姉妹に於ては、あわただしい職場にあつて常に自己の健康に御注意され、時間の餘裕ある時は山に、川に自然の大地に接して心ゆくばかり清冷なる空気に親しんで健康を保つて戴きたい。

世は將に聖戰下、美しい着物などは問題外になりました。この時代に落伍者の一人も無い様お互が元氣で強く大地を踏みしめて、手を取りながら活動しなければなりません。社界に於ても上層階級の方々にはよりよく私達の職場を認識してその最善に努力をつくして戴きたいと思ひます。

遠くは滿洲、近くは此近くの諸姉妹の御健康と御多幸とを御祈り致しますながら、近頃私共の痛切に感じて居ります事どもを書きつらねて見ました。(九月八日記) (筆者は教職養成科教師)



科學點描 (5)

土壤の螢光

水田土壤の表土の多くは之にアセトンを加へ石炭酸に當ると其の上澄液は赤色の螢光を發するが、林地或は畑地の乾燥土壌は青色の螢光を發する。この赤色螢光は含葉綠素物質の存在に因るものと考へられ、従つてこの土壤を灼熱したり、過酸化水素、鹽酸、或は苛性曹達で處理してこの含葉綠素物質を分解すれば赤色螢光は消失する。この方法に依り赤色螢光は水田土壤の表土の鑑別に使はれたり、土壤中に於ける含葉綠素物質の消長の

判定に役立つだらう。(土壤肥料學雜誌から) スフは日光で傷まない

糊抜きしたスフ織物は濡して一つは日光、一つは室内乾燥を行ひ同時に無處理のものも三者共同一強伸度を示し、スフが日光による損傷が見られなかつた。スフが日光によつて傷むのは藥品が混合してある場合紫外線によるのであらう。單なる水の時はいずれもない。(沈澱物報より)

砂糖過食の害

健康の良否は身體内の酸鹽基平衡の如何によるもので、同平衡が正しく保たれては病的状態となる。砂糖の過食は酸性となし、この爲に種々なる障害を惹起する。即ち全身の各臟品組織が病的状態となり、機能の低下と形態の變化を招來し、體質を虚弱にし、色々の疾病に罹り易くなる。一旦その嗜好に習慣づけられれば、過食偏食に陥り勝て知らず職時から甘味でなく鹹味に習慣付ける様注意することゝ最も肝要であり、且つ安全である。若し國民が擧つて砂糖の食入を廢絶すれば期年ならずして疾病特に年少者の疾患が半減することは確實である。(科學知識から)

御挨拶

謹啓 初秋の初愈々御清適の段奉賀候 陳者小生儀岩手縣在職中は公私共格別の御懇情を忝うし誠に難有奉深謝候然る處先般長野縣へ轉勤全縣蠶絲課長拜命去る六月着任仕候に付ては何卒不相變御指導御鞭撻賜り度幾重にも御願申上候 實は就任早々々々御挨拶可申上所有に有之候處種々取紛れ居り至不本意遂に筆不精を續け今日に及び候次第何分事情御察察御許し下され度奉懇願候 先は右後ればせ乍ら御挨拶少々御諾まで申上度如斯御座候 敬具 昭和十七年九月 長野市西長野縣官舎 鶴田 定平 電話長野二八四五番

明文堂

東京市神田區錦町一丁目東京一振替口座東京一三一九〇番

同書目錄切手十錢入用

Table listing various scientific and agricultural topics such as '養蠶一般' (General Sericulture), '農林省蠶絲試驗場' (Ministry of Agriculture Sericulture Experiment Station), and '栽桑' (Silkworm Rearing). Each entry includes the author's name and page number.

本會記事

八月二十五日 會報第十九號發送す
九月二日 故追繁氏外二名の御遺族へ有志形
慰金贈呈す

遠藤先生退官記念品
贈呈資金受領報告 (九月五日)

金五圓也 (宮川 俊雄)
右合計金五圓也
累計金七百參拾四圓也

會費領收

入會金納入者
完納者

- 昭十七年度會費金四圓也
星野 莊次(蠶三)
土岡 光郎(蠶七)
古越 光明(蠶四)
齋藤 軍二(蠶七)
西田 正(蠶三)
坂口 宵三(蠶三)
關 博夫(蠶三)
宇田 哲郎(蠶五)
半田 孝康(蠶六)
櫻井 卓三(蠶三)
齋藤 保夫(蠶七)
宮野 玄九(蠶八)
宮原 秀人(蠶九)
井生 茂(蠶三)
平澤和司男(蠶四)
田中 信重(蠶七)
坂本 政雄(蠶七)
小林忠子郎(蠶七)
佐藤 住良(蠶六)
高橋 利夫(蠶七)
柴田 利夫(蠶七)
神林 至(紡九)
終身會費納入者
市村志真(蠶二)
- 宮川 繁治(蠶三)
宮本 清松(蠶六)
齋藤 章(蠶三)
前島 正直(蠶三)
久保田不二男(蠶三)
田澤 輝雄(蠶五)
今井 省吾(蠶五)
恒川 芳保(蠶三)
相澤 仲司(蠶三)
由井 千幸(蠶六)
高馬 一郎(蠶七)
大石 唯男(蠶七)
山下 政男(蠶三)
宮原 英俊(蠶三)
宮田 正一(蠶五)
江野村 一雄(紡七)
橋本辰次郎(紡七)
勝田清三郎(紡二)
小林 典夫(紡六)
下田 憲三(紡九)
馬路 福夫(紡九)
星野 莊次(蠶三)

未納會費納入者
金拾六圓也(昭和十三、十四、十五、十六
年度分) 土岡 光郎(蠶七)
金四圓也(昭和十四年度分) 宇田 哲郎(蠶五)

金四圓也(昭和十五年年度分)
柳澤 一郎(蠶三) 湯本益次郎(蠶七)
金四圓也(昭和十六年度分)
下田 統夫(紡九) 馬野 福夫(紡九)
準會費納入者
金壹圓六拾錢也(昭和十六、十七年度分)
橋澤 時子(蠶八)

叙任辭令

- 現職員之部
勳二等授瑞寶章 勳三等 井上 柳梧
彼勳四等授瑞寶章(以上八月十九日) 岡 徳治郎
舊職員之部
彼正六位(六月十五日) 從六位 行元 自忍
卒業生之部
公立實業學校教諭 本谷 良雄
六級俸當分千六百六拾八圓下賜 橋本 廣
七級俸當分千五百七拾圓下賜 小野 修二
九級俸下賜以上(六月三十日) 朝鮮總督府道警視陸軍少尉從七位 富田 乙松
兼任總督府理事官、敝高等官七等 福島縣立蠶業農學校教諭兼舍監 安部 和
公立實業學校教諭=任ス、高等官七等特選、和
同校教諭兼舍監=補ス以上(八月四日) 田口富五郎
滿洲國(出張)命ス(八月五日) 地方農林技師 森本爲之助
福井縣農林技師=補ス(八月八日) 宮川 繁治
九級俸下賜(六月三十日)

鹿兒島縣立宮之城農蠶學校教諭 小山 惠治
公立實業學校教諭=任ス、高等官七等特選、
同校教諭=補ス(八月十五日)

公立實業學校教諭兼舍監、高等官七等特選、
同青年學校教員養成所教諭 大澤 寶市
公立實業學校教諭兼舍監、高等官七等特選、
九級俸當分千貳百六拾圓年功加俸年額九拾六
圓、舍監加俸年額六拾圓下賜(八月十八日) 地方農林技師 上山 巖
願=依り本職ヲ免ス(八月十九日) 地方技師 佐藤良太郎
四級俸下賜依願免本官(八月二十一日)
公立實業學校校長兼教諭 日比野一夫
年功加俸年額金百九拾貳圓下賜(三月廿一日)
任陸軍中尉(七月六日) 陸軍少尉 渡邊 善次

勳五等授瑞寶章(八月十九日) 勳六等 倉澤一二三
公立實業學校教諭兼舍監 中尾小太郎
八級俸當分千四百四拾圓下賜(八月四日) 農林技師 田口 敏夫
全日本絹織工聯並日本中央蠶絲會共同主催實
用絹製品競技展覽會審査官ヲ命ス(八月二十
九日)

本校辭令

副 手 倉田 正一
願=依り副手ヲ免ス(九月十二日)
臨時副手 宇田 哲郎
願=依り臨時副手ヲ免ス(九月十一日)

計報

弔慰金報告 (九月五日)

故正木章三氏弔慰金 金五圓也 栗野真一郎

右合計金五圓也
累計金四拾貳圓也
故古東幹太氏弔慰金 金五圓也 鹽原 克巳
金貳圓也 後藤 幸一
右合計金七圓也
累計金參拾五圓也
故藤井爲五郎氏弔慰金 金參圓也 乾 正
右合計金參圓也
累計金四拾八圓也

故土屋久雄氏弔慰金 金貳圓也 湯本益次郎
金壹圓也 北原 幸治
右合計金六圓也
累計金貳拾參圓也
故飯田省三氏弔慰金 金五圓也 柴田 利男
金貳圓也 下田 統夫
右合計金七圓也
累計金拾參圓也

故古郡友一氏弔慰金 金貳圓也 後藤 幸一
右合計金貳圓也
累計金貳圓也

弔慰金募集

故古郡友一氏(蠶七)
故渡邊善次氏(蠶廿三)
以上二氏に對し弔慰金を募集致します。
故古郡氏は九月末日、故渡邊氏は十月末
日迄に取纏め御遺族へ贈呈致したいと思
いますから夫れに間に合ふ様振替口座東
京四三三四一各故人に對する弔慰金
の旨御記入の上御拂込下さい。
昭和十七年九月
千 曲 會

會員動靜

(九月十日現在)

- (但シ末尾括弧内ハ移動月日又ハ通知狀切手消印)
- 小山田啓三 (蠶六) 日本蠶絲統制山形出張所秋田區主任(九月五日)(住)山形市地蔵町空
 - 森本爲之助 (蠶七) 福井縣經濟部農産課(福井市)地方農林技師、蠶業取締所長(住)福井市豊島中町三九(九月七日)
 - 万石安太郎 (蠶九) 日本蠶絲統制株式會社蠶繭課(住)埼玉縣與野町下落合一六五〇(八月一日)
 - 後藤 仙彌 (蠶九) 慶尚北道原蠶種製造所所長、朝鮮産業技師(住)大邱府新川洞一、八九九(五月)
 - 門田秀太郎 (蠶一〇) 公川(七月二日)
 - 今村 良郷 (蠶一〇) 愛知縣蠶業試驗場豊川支場(寶飯郡豊川町)(住)丹羽郡布袋町本町四丁目(八月二日)
 - 小山 哲夫 (蠶一〇) 石川縣立柳田農學校(鳳至郡柳田村)(八月一日)
 - 竹内 善吾 (蠶一〇) 南方派遣四六二六部隊(七月七日)
 - 片山 次夫 (蠶一〇) 南方派遣三四六野戰郵便局氣付六九二二部隊
 - 新井宇之輔 (蠶一〇) 召集解除(勸)千葉縣立小見川農學校(香取郡小見川町)(住)千葉縣佐倉町並木町三二(八月二日)
 - 大澤 寶市 (蠶一〇) 千葉縣立茂原農學校教諭兼千葉縣青年學校教員養成所教諭(茂原町)(住)千葉縣長生郡茂原町保二二
 - 兩宮 金雄 (蠶一〇) 東京府南多摩地方事務所經濟課(八王子市寺町七五)(住)立川市錦町五、一四三八(七月二日)
 - 遠山 正人 (蠶一〇) 群馬縣立勢多農林學校(前橋市外三俣)(八月二日)
 - 渡邊 嘉博 (蠶一〇) 舊姓松下(勸)興農合作社中央農事課(新崎市興仁大路)(八月五日)
 - 米澤 俊吾 (蠶一〇) 昭榮製絲株式會社(東京市日本橋區吳服橋三丁目七番地三、東京建物ビルテング三階)(住)東京市神田區末廣町四七(八月三日)
 - 藤田 四郎 (蠶一〇) 日本レイヨン北支出張所(住)中華民國山西省太原市半坡東街四號(八月)
 - 江口 喜清 (蠶一〇) 滿洲五一一部隊(八月二日)
 - 川谷壽一郎 (蠶一〇) 農事試驗場(奉天省復縣方家嶺)(八月一日)
 - 丸川 貞雄 (蠶一〇) 北部一八部隊(八月三日)
 - 加藤 沼二 (蠶一〇) 愛知縣瀬戸高等女學校教諭(住)愛知縣愛知郡幡山村本地(八月三日)
 - 竹内 寛 (蠶一〇) 舊姓伊比(勸)北支隊六一四七部隊(八月二日)
 - 小山 長雄 (蠶一〇) 東部六七部隊(八月二日)

編輯後記

清澄思案の秋が到来した。大東亞戰下正に英氣を養ふべきの秋である。千曲會員の益々の御健勝と御奮闘を祈つて止まない。

我と思はん者どし、本會報へ御投稿されたい。研究、論説、隨筆、俳句、科學點描等思ふ所何れも結構である。本會報をして其の使命を遺憾なく發揮せしめられたい。

(編輯室より)

昭和十七年九月二十日印刷 (非賣品)

昭和十七年九月二十五日發行

編輯兼 發行所 上田蠶絲專門學校内
 編輯兼 發行所 上田市原町五七九五
 印刷所 上田市原町五七九五
 印刷所 中澤印刷所

發行所 上田蠶絲專門學校内
 社団法人 千曲會
 電話 上田四〇六番、六六一番
 長野口 廣野三三三番、六二四三番

千曲會指定旅館案内

所在地	旅館名	電話	一室	二室	三室	浴室	備註
上田	上村館	上田三四四番	三〇〇	三〇〇	三〇〇	浴室付別荘ハ二食付一泊間	
信州菅平高原	菅平ホテル	菅平 一番	三〇〇	三〇〇	三〇〇	二食付一泊間	
全	別館 望岳荘	菅平 一番呼出	三〇〇	三〇〇	三〇〇	二食付一泊間	
全	鐵道省山の家	菅平 一番呼出	三〇〇	三〇〇	三〇〇	二食付一泊間	
上田市外別所	花屋ホテル	別所 一三番	六〇〇	五〇〇	四〇〇	二食付一泊間	
全	柏屋別荘	別所 一三番	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二食付一泊間	
戸倉温泉	笹屋ホテル	戸倉特長、三番	六〇〇	五〇〇	四〇〇	二食付一泊間	
全	上田館	戸倉 二七番	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二食付一泊間	
上山温泉	清風園	上山代表	六〇〇	五〇〇	四〇〇	二食付一泊間	
全	圓山荘	戸倉 一四番(別館)	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二食付一泊間	
東京	目下交渉中	戸倉 一〇番	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二食付一泊間	
名古屋		浅草(80) 七五番	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二食付一泊間	
京都		福島(45) 七五番	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二食付一泊間	
大阪		東京大阪案内所	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二食付一泊間	

昭和十七年九月二十日印刷
 昭和十七年九月二十五日發行

二十號

【非賣品】

發行所

上田蠶絲專門學校

千曲會